

脳卒中救急医療体制整備に対する脳神経外科の役割：第3報

Role of the neurosurgeons to improve stroke emergency medical system. Third report.

公益財団法人 脳血管研究所 美原記念病院

脳神経外科 谷崎 義生、赤路 和則

神経内科 美原 盤

前橋赤十字病院

脳神経外科 朝倉 健

公立藤岡総合病院

脳神経外科 甲賀 英明

高崎総合医療センター

脳神経外科 栗原 英行

【背景と目的】群馬県では、脳卒中救急医療体制整備は主として脳神経外科医が担ってきた。1. 人材育成、2. 受け入れ病院の明確化、3. 脳卒中救急搬送症例の事後検証による救急隊活動の質向上、などの体制整備を推進し、本学会で報告してきた。今回は県が作成した群馬県統合型医療システムを用いて、t-PA常時可能13病院に救急搬送された脳卒中症例の事後検証を行ったので報告する。

【対象と方法】平成29年1月に13病院に救急搬送され、脳卒中と診断された208例を対象にした。活動記録票にある1. 脳卒中判断（顔面麻痺、上肢麻痺、言語障害、激しい頭痛、異常肢位、その他）、2. 受け入れ病院は確定病名を入力、対象症例の脳卒中判断と発症時間の記載率を消防が一時検証し、県消防保安課が集計、県MC検証医が活動記録表と突合して二次検証を実施した。【結果】脳卒中判断記載率83.7%、発症時間記載率83.2%と初めて80%を超えた。脳卒中判断は感度86.5%、特異度94.7%、陽性的中率47.1%であった。【結論】1. 群馬県統合型医療情報システムを用いることにより、救急隊、行政、病院の連携した組織的二次事後検証の結果、病院前救護の質検証が可能になった。2. 今後は、前述の組織的事後検証の取り組みを生かし、脳主幹動脈閉塞症例に対する血栓回収術強化の取り組みが重要課題である。